

2005年6月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、極付近が顕著な正偏差に覆われた。また西半球の中緯度ではプラネタリー波の伝播に対応する波列が見られ、アラスカの南海上、ラブラドル高原付近、ヨーロッパ西部では正偏差、日付変更線付近、北アメリカ西部、北大西洋では負偏差が交互に分布した。

熱帯の対流活動は、インド洋で東部を中心に平年より活発、南シナ海北部から南西諸島で平年より活発だった。また、北大西洋のカリブ海付近でも平年より活発だった。一方、インドネシアの東部では平年より不活発だった。

850 hPa 流線関数および風ベクトルでは、インド洋の西部で高気圧性循環偏差が見られた。太平洋の西部から中部では両半球に高気圧性循環偏差が見られ、赤道域は東風偏差となった。一方、太平洋東部では西風偏差となった。

SOI (南方振動指数) は+0.4となり、2005年3月以来3か月ぶりに正の値に転じた。

世界の天候

① 日本から朝鮮半島の少雨

② 日本からインド東部の高温

インド東部、バングラデシュ、パキスタンでは熱波により、計300人以上が死亡したと報じられた。

③ マレーシアからインドネシアの高温

④ インド西部の多雨

⑤ 西シベリアの多雨

⑥ ヨーロッパの少雨

ヨーロッパ西部では水不足の影響が伝えられた。

⑦ ヨーロッパ西部からモロッコの高温

イタリアやスペインでは熱波に見舞われ、イタリアで20人以上が死亡したと報じられた。

⑧ アフリカ西部の多雨

⑨ 北米中部の多雨

⑩ 北米東部の高温

⑪ 米国南部からカリブ海諸国の多雨

⑫ メキシコから米国南部の少雨

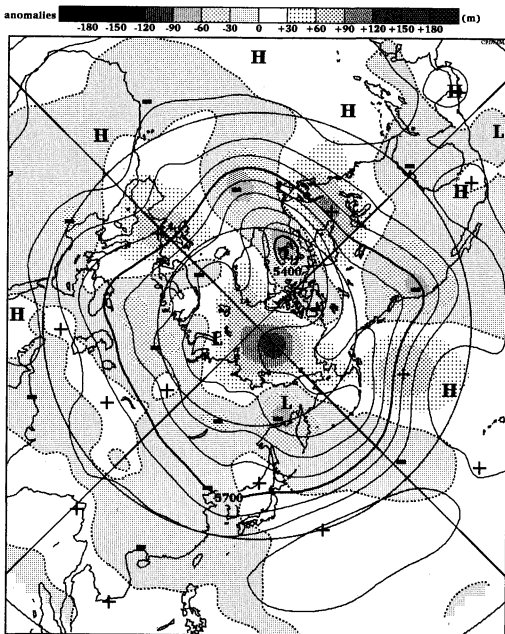
⑬ ベネズエラ周辺の多雨

⑭ 南米北部の高温

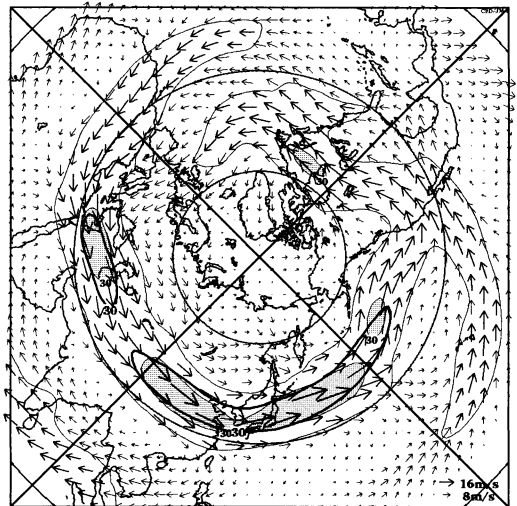
⑮ オーストラリアの多雨

オーストラリア東部では大雨による洪水が発生し、2人が行方不明、数千人が避難したと伝えられた。

(気象庁地球環境・海洋部気候情報課 村上喜章)

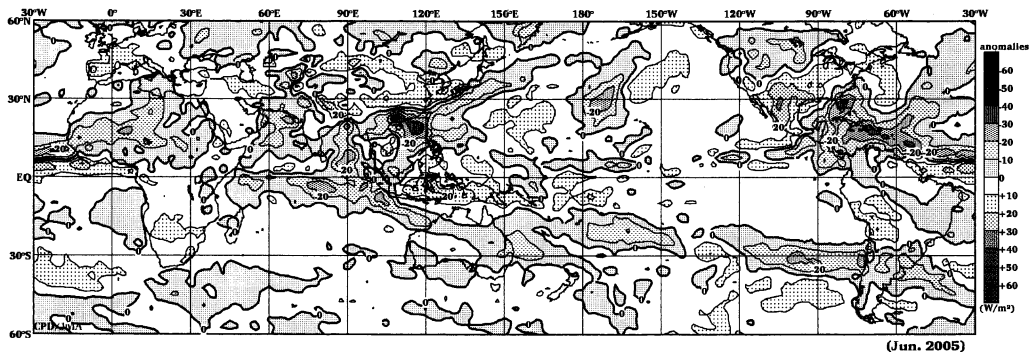


2005年6月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は30 m, 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



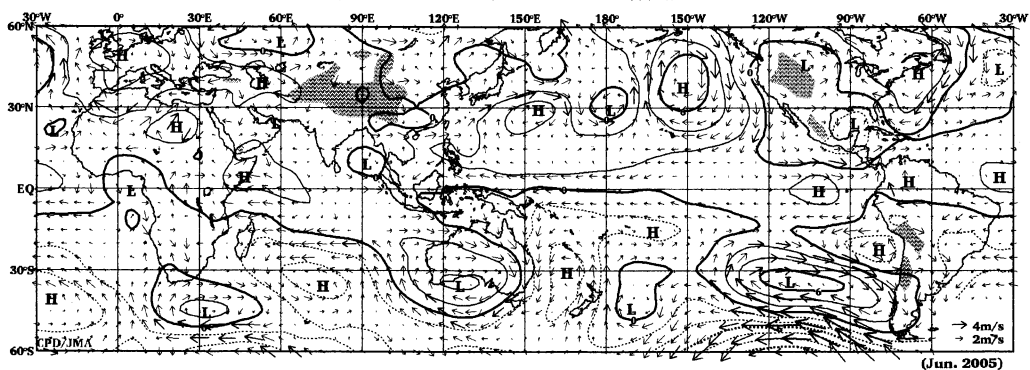
2005年6月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

等値線間隔は15 m/s, 陰影部は30 m/s以上, 太実線で囲まれた領域は平年の30 m/s以上の領域を示す, 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



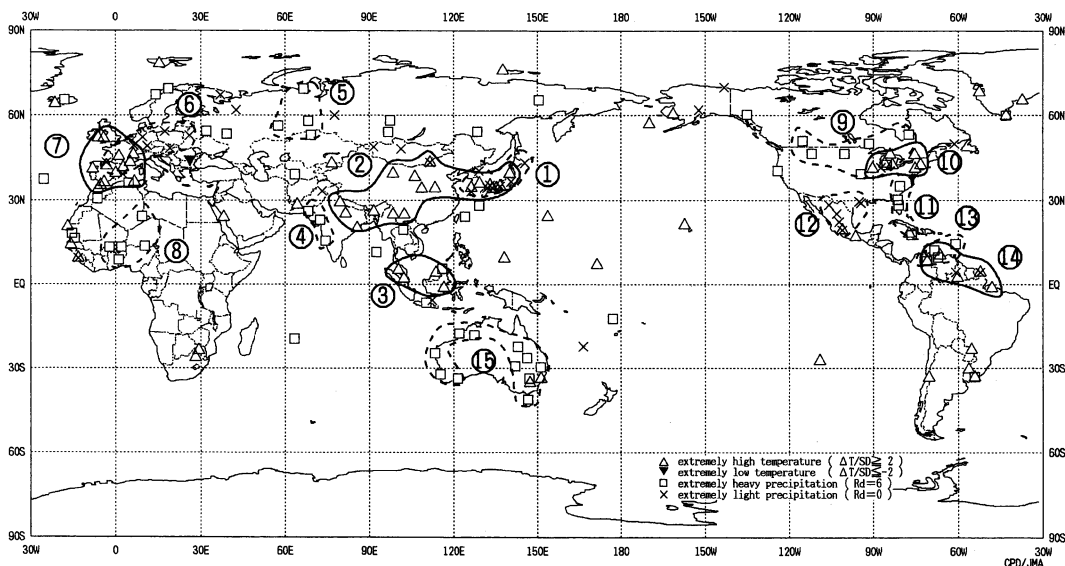
2005年6月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は 10 W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは CPC/NCEP/NOAA、平年値は1979~2000年のデータから作成。



2005年6月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 、平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2005年6月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。図中の番号は本文中の番号と対応している。